

# 教育のページ

## 高工業 田辺 心肺蘇生、炊き出し訓練 自衛隊員の防災講座

田辺市あけぼのの田辺工業高校でこのほど、1年生約160人が自衛隊員18人から防災の実習訓練を受けた。

陸上自衛隊和歌山駐屯地(美浜町)の第304水際障害中隊と自衛隊和歌山地方協力本部田辺地域事務所(田辺市下方呂)の協力で実施した。

武道館での学習では、和歌山駐屯地司令で第304水際障害中隊長の荒木憲さんが「自衛隊では普段から災害時の訓練を続けている。災害に対する心構えを持ち、計画や準備を怠らないようにしよう」と呼び掛けた。

体育館での実習訓練では、災害時に生かせる知識を学ぶ

講座があった。心肺蘇生法の講習では看護師の資格を持った隊員から、心臓マッサージや自動体外式除細動器(AED)の使い方などを教わった。

応急の担架の作り方では、毛布やパイプを使うだけでなく、頑丈な衣服で代用できる方法を学んだ。救助器具の紹介もあった。

女子生徒は非常用保存食のアルファ米を使って炊き出し体験をした。

中平ななこさん(16)は「アルファ米は硬めだけど普通に食べられるし、味の種類もたくさんあるので災害時にも安心できる。お湯や水でも効率よく作れるのが便利」、

岡本桐弥君(16)は「自衛隊



自衛隊員に救命処置を教わる高校生(田辺市あけぼので)

員を目指している。災害の時に使う道具や応急の担架の作り方を知れて勉強になった」と話した。